

生涯みんなで学びあえる 村づくり

1

学校教育

現状と課題

本村では、少子化の進行に伴い、児童・生徒数や学級数が減少しています。このような状況の中で、本村の子どもたちが健やかにたくましく育つことができる教育環境をつくっていくことは重要なものとなります。

本村ではこれまで、国の学習指導要領に基づく基礎・基本の定着をめざすとともに、椎葉村内小学校による集合学習や学校間の交流学習により児童・生徒間の交流の活性化を図り、集団の中での自主性や社会性の育成に取り組んできました。また、学習指導方法の研究、研修の充実による教職員の資質向上に取り組んできました。

さらに、家庭における基本的な生活習慣の育成や、学校での総合的な学習の時間の充実、クラブ活動の推進、海外交流体験学習の実施、福祉・ボランティア活動の充実などを通じて児童・生徒の豊かな心の育成にも取り組んできました。本村の伝統文化や地域の人材を活用するなど学習指導過程を工夫し、学校教育と社会教育が一体となった学社融合的な学習機会の確保にも努めています。今後も、児童・生徒数の減少が見込まれる中では、学校再編を視野に入れながら多彩な学習活動の展開や学校への支援を行い、本村ならではの教育を推進する必要があります。

本村の教育を取り巻く現状として、高校、大学の進学における各家庭の経済的負担の増加があり、その支援として奨学資金の貸付や生活支援費補助、また、優秀な人材の確保及び後継者対策の一環として、帰村者に対する奨学資金返還免除を実施しています。これにより保護者の負担軽減が図られ、近年では高校進学率が100%となっており、村内外で活躍する人材の育成に大いに役立てられています。今後とも保護者の負担を軽減し、進学を通じて次代を担う人材の育成を図るため、借り主や奨学生に制度の目的、趣旨を十分認識してもらった上で、就学の支援に取り組む必要があります。

教育施設等の整備については、校舎や体育館、中学校寄宿舎、教職員用住宅の老朽化に伴う改修が必要で、教材備品の充実も求められています。また、学校施設の開放による学社融合を展開しており、子どもたちの健やかな育成のためには、今後とも社会教育と連携のもと、地域全体で子どもを育む環境をつくっていくことが求められます。

基本方針

「椎葉村教育振興基本計画」に基づき、学力や体力、豊かな心を育成する教育を推進し、子どもたちのたくましく生きる力を育むとともに、教職員の資質向上や就学の支援、教育施設の整備等により教育環境の充実を図ります。

施策の体系



施策

① 生きる力を育む教育の推進

- 本村のすべての子どもたちが、変化の激しい時代の中で自分への自信をもち、自立し生きていくことができる力を育むために、学力・体力・豊かな心をバランスよく育成する教育を推進します。
- 集合学習や交流学习を充実させるとともに、ふるさとに誇りと愛着を育む教育やキャリア教育※1、外国語教育など、時代の要請に応える教育を推進します。

② よりよい教育環境の整備・充実

- 児童・生徒の学びを支えるため、教職員の資質向上に関する研修の充実をめざします。
- 保護者の負担を軽減し、就学環境を向上させることで、知識や技術を習得した次代を担う人材の育成を図るとともに、優秀な人材の確保と後継者対策の一環として、帰村者に対して奨学金返還免除制度を推進します。
- 老朽化している校舎や体育館等の教育施設、中学校寄宿舎等を順次改修していくとともに、教材備品の充実や学校再編の検討を進め、よりよい教育環境の整備をめざします。

※1 **キャリア教育**: 児童生徒に、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育。